

白梅に息吐く音のしてゐたり

山田真砂年

「俳句四季」六月号、「歌仙半ばに」十五句より

白梅に「息吐く音」と充てた、大胆なメタファーに目が留まった。梅のように永く愛されてきた題材は、先入観で詠まれがちなものだが、捉われずに独自の世界を表現している。なるほど白梅の開花は、長い冬を経てようやく春にたどり着いた安心感の吐息のようにも思える。身近な素材をあらためて見直すことの大切さを思い出させてくれた。